

時の動き

群馬県にもMV22（オスプレイ）飛来

日米共同訓練3/6〜3/11により、群馬県にもオスプレイ

群馬県 近藤 泰夫

抗議の集会・デモ

群馬県榛東村あづまの陸上自衛隊相馬原演習場などで行われる日米共同訓練（フオレスト・ライト02）に反対する「オスプレイ来るな！ 日米合同演習やめよ！ 2・25群馬県民集会」が群馬県高崎市の高崎城址公園で開かれた。沖縄と連帯して、安倍政権が進める戦争する国づくりを阻止しなければなりません。

日米共同訓練が開始された

陸上自衛隊と米海兵隊との実動訓練の開始式が6日、相馬原駐屯地（群馬県榛東村）で行われ陸自隊員250人、

米海兵隊員200人が参加した。オス

プレイは飛来しなかった。訓練は陸自と海兵隊の相互指揮系統を理解することを主目的に、17日まで同駐屯地と関山演習場（新潟県妙高市）でオスプレイを含む日米航空機による空中機動訓練やヘリボン訓練が開始された。

榛東村村長の談話

平成29年2月23日の概要広報を踏まえ、村長は村民の安全・安心の確保が第一（重要）であること、高校入試（3月7日、8日）等に十分配慮することなどをコメントしました。

ついに群馬に飛来

米軍横田基地（東京都）を飛び立ったオスプレイは9日午前9時前、1機が群馬県に初めて飛来し、相馬原演習場に着陸しました。そして、午後から訓練が始まり、アメリカカ兵や自衛隊員がオスプレイに乗り込み、地上およそ10メートルの高さで停止させた機体から、ロープを使って地上に降りる降下訓練を行った。オスプレイが大規模な訓練に参加するのは、去年12月に沖縄県名護市で大破した事故以降初めてです。



群馬県内を飛行中のオスプレイ

訓練反対で抗議の声

相馬原演習場の前では、オスプレイの訓練参加に反対する団体のメンバーおよそ100人が、「オスプレイ来るな」とか「群馬の空にオスプレイを飛ばすな」などと、抗議の声を上げた。

その後の訓練

陸上自衛隊と米海兵隊は13日、新潟県妙高市と上越市にまたがる関山演習場で共同訓練に取り組み、米軍普天間飛行場（沖縄県）に所属する垂直離着陸輸送機MV22オスプレイ4機が参加した。

関山演習場では、敵の制圧を想定した総合訓練を15日までの3日間、陸自隊員が約300人、米海兵隊員は約450人が参加して実施。オスプレイは陸自隊員を輸送して地上に展開させたり、撤収する役割を受け持つ。関山演習場には午後1時ごろ、オスプレイ4機が飛来。このうち1機が上空で旋回を続け、3機が次々と着陸した。

着陸後、オスプレイからは防寒用の白い戦闘服に身を包んだ陸自隊員が地上に続々と降り立った。隊員は1機当たり十数人で、合わせて40人ほどがスキーを装着して移動し、敵兵を攻める訓練に取り組んだ。予定されている

6機が参加すれば、国内の共同訓練では過去最多となる。

日米安保・自衛隊が存在する限り軍事訓練はなくなるらない

軍用機の事故についての原因追及は軍事機密につき、内緒となります。民間機の場合は、御巣鷹の日航機墜落でも徹底した究明と毎年の事件の報道があります。大規模事故だからかもしれないですが、未来への教訓としても継続されていくと思います。しかし、数々の軍用機の事故については、内密に処理されています。こんな怪しいことは未来につながりません。

読者の皆さんや多くの一般市民は、「戦争のできる国づくり」に抗した考えを抱いていると思います。正に今、反対組織に連帯し強化発展させるために立ち上がる時だと思えます。

(こんどう やすお)